

ミニ企画展コーナー

～平野人～

森田恒友展

～ごあいさつ～

私たちの郷土熊谷は、多くの芸術家を輩出した街ですが、その中の代表的な作家に洋画家・日本画家で、日本画壇に大きな足跡を残した、森田恒友がいます。

恒友は明治14年に大里郡玉井村（現熊谷市）に生まれました。20歳の時に画家を志して上京、東京美術学校（現東京藝大）西洋画科専科に入学し、青木繁や熊谷守一らと“青木グループ”を結成、画力を研鑽しました。首席で卒業後、石井柏亭、山本鼎と三人で美術文芸雑誌『方寸』を創刊、第一回文展に「湖畔」を出品・入選するなど、精力的に活動しました。

大正3年4月に渡欧し、ロンドンから南仏、イタリア、スペインを旅行し、後期印象派の代表的な画家、ポール・セザンヌの影響を強く受けます。

帰国後は、二科会会員、日本美術院洋画部同人となりますが、9年に日本美術院洋画部を脱退、以後、油彩画の制作から主に水墨画や素描を発表するようになります。

大正11年、41歳のときに、小杉放菴らとともに春陽会を設立、我が国の近代美術界に大きな影響を与えました。

昭和4年には、帝国美術学校（現、武蔵野美術大学・多摩美術大学）の創立に当たって洋画科主任教授に着任、後進の指導にあたるなど、ますますの活躍を期待されましたが、昭和8年、52歳の若さで亡くなりました。

今回のミニ企画展は所蔵品を中心に、郷土熊谷を代表し全国的な名声を誇る画家として活躍した森田恒友の、～平野人～と自らを称した後半生の日本画を展覧いたします。そして油彩画の手法では表すことのできない日本の風景の表現に真摯に対峙し、自らの作風を作り上げた恒友の、絵画に対する情熱を感じていただくとするものです。

これらの作品をとおして、恒友の作品対象へのまなざしを感じていただき、また日本の風景の素晴らしさも感じていただければ幸いです。



春郊図 大正14年

会期：平成27年3月10（火）～5月31日（日）

[休館日：毎週月曜日（祝日を除く）、4/3、4/30、5/1、5/7]

会場：熊谷市立熊谷図書館 3階 郷土資料展示室

主催：熊谷市立熊谷図書館

住所：熊谷市桜木町2-33-2

電話：048-525-4551



村童 大正5年頃



芦荻水禽図 大正12年頃



山路



春さき



晩春風景 大正6年頃